

嬉野市曲「ふるさとの空よ」寄せて

豊かな自然の恵み溢れる、嬉野市。

その恵みに感謝し、大切に守り継ぎながら生きる、嬉野の人と文化。

この先を生きる人々へと、この“自然”と“意志”という嬉野の宝を守り継いでもらえますように、という願いを込めて、生まれた歌です。

1.

嬉野の恵みである農の象徴として、“朝霞に潤うお茶畑”と“夕焼けになびく黄金色の稲穂”を詠いました。

育むいのちを茶と米にかけて“香しく”と謳い、恵みの父となる“土”を讃える章

2.

嬉野のもう一つの恵みである観光の象徴として、“温泉街”と“塩田川の歴史”を詠いました。

水にかけて“麗しく”と謳い、恵みの母となる“水”を讃える章

3.

先人たちより受け継いだ遺産の象徴として、“道”と“意志”を詠いました。

生きることの厳しさと、厳しいからこそ朗らかに手をつなぎ、力を合わせて生きる、嬉野の人の素晴らしさ。

これからも、そんな嬉野を守り継いでいこう、という想いを込めた章。

まるで日本の心のふるさとのような嬉野の空を、千代に八千代に、受け継いでいってください。

佐藤和哉